平成 26 年 1 月 21 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1　日　　時　平成 26 年 1 月 21 日（火曜日）

午後 1 時 45 分から午後 2 時 55 分まで

2　場　　所　和島小学校　音楽室

3　出席委員

委員長　大橋　岑生　　委　員　羽賀　友信　　委　員　中村　美和

委　員　青柳　由美子　　教育長　加藤　孝博

4　職務のため出席した者

教育部長	佐藤　伸吉	子育て支援部長	矢沢　康子
教育総務課長	若月　和浩	教育施設課長	中村　　仁
学務課長	田村　　均	学校教育課長補佐	竹内　正浩
子ども家庭課長	佐藤　正高	保育課長	栗林　洋子
中央公民館長	武樋　正隆	中央図書館長	金垣　孝二
科学博物館長補佐	村上　昭夫	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢　慎一
学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原　　徹	学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史
学校教育課係長兼指導主事	野池　康一	保育課課長補佐	小林　信行
保育課保育政策係長	梅沢　一茂	保育課主任	土田　富士夫

5　事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	教育総務課庶務係長	水内　智憲
教育総務課庶務係	清水　晶子		

6　議事日程

日程	議案番号	案　　件
1		会議録署名委員について
2		議席の指定

3　会議の経過

（大橋委員長）　これより教育委員会１月定例会を開会する。

◇日程第１　会議録署名委員について

（大橋委員長）　日程第１　会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第２項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

◇日程第２　議席の指定

（大橋委員長）　日程第２　議席の指定を行う。議席の指定については、会議規則第７条の規定に基づき、委員長が指定することになっているので、ただ今の着席のとおり指定する。

（大橋委員長）　以上をもって本日の日程は終了した。

（大橋委員長）　続いて、協議報告事項に移る。

（大橋委員長）　まず、協議事項に入る。「長岡市公立保育園民営化の基本的な考え方」の策定について、事務局の説明を求める。

（栗林保育課長）　公立保育園の運営方法等に関する今後の政策方針の中で、教育委員会は五つの政策を進めていく予定である。その政策の一つとして、民営化の基本的な考え方を策定するとして 12 月の市政だよりにも掲載し、今後の長岡市の取り組みを市民に周知したところである。長岡市として初めての取り組みであるので、

考え方を整理したうえで市民に説明し、理解していただきたいということで策定をするものである。あくまでも案という形で、本日、さまざまな意見をいただいて修正等を加えながら最終的にはパブリックコメントという形で市民にご覧いただき、説明していきたいと考えている。基本的な考え方の策定にあたって、市としては限られた財源の中で多様化する保育ニーズに対応し、子どもたちのより良い保育環境を整えるために民営化に取り組もうと考えている。ここで一番伝えたいことは、民営化に対する基本的な考え方である。今後、少子化の中ではあるが保育ニーズが多様化している現状を捉えながら、より良い保育・教育をしていくために民営化を進めるということである。まず一つ目は公立保育園を残しながら、公立・私立それぞれの特色を活かしながら進めて行くということである。公立保育園の特色としては、行政機関としてのネットワークを大いに活かし関係機関との連携を図りながら、行政として保育の需要の実態、課題などを保育園を運営する中で的確に把握し、保育を必要とする子どもが等しく保育を受けられるようにセーフティネットとしての役割を担う。一方、私立保育園の特色としては、多様化する保育ニーズに迅速に、柔軟に対応していくには欠かせない民間活力を導入する。以上のことを踏まえながら長岡市の保育環境を整えて行きたい。二つ目に、保護者や地域などの関係者に目的や計画について十分な説明を行って進めると言うこと。三つ目に、これまで培ってきた保育における豊かな体験や、地域との繋がりを育んできた長岡らしさを大切にして進めるということ。四つ目に、民営化後も行政としての保育に対する責任を果たしていくということである。民営化については以上の四つの点について説明をしていきたい。続いて、民営化による効果として三つ挙げられる。一つ目は子どもの保育環境の充実である。限られた財源の中では老朽化した施設の改修が進んでなく、３歳未満児が急増し、年齢に応じた保育室の整備ができにくい状況である。民営化によって保育環境が充実することを見込んでいる。二つ目は子育て家庭を支える環境の充実である。民間活力の導入によって多様な保育ニーズに柔軟かつ迅速に対応し、保護者により安心できる保育環境を提供できるのではないかと考えている。三つ目は子育て支援の充実である。民営化によって市の負担分が軽減すると期待されている。今までの負担分を新たな財源として、様々な子育てを充実する施策に振り分けられるのではないかと考えている。次に、民営化の基本的な実施内容として

七つ挙げている。一つ目は、民営化にあたって保護者が不安に思われることがあるとしたら何かということ。例えば、保育料はどうなるか。保育料は民営化後も変わらず、公立保育園と私立保育園では金額による差異はない。また、保育士の配置や園児１人当たりの保育面積も県の基準によって定められているので、民営化後も大きく変わることはない。保育内容も保育士資格という国の資格があるので、公立も私立も大きく違うことはない。当面は民営化前の保育内容や年間行事を引き継ぎ、大きな変化がないようにしたいと考えている。二つ目は、民営化の形態はどうなるか。これは民設民営となり、建物も運営もそっくり移管することになる。三つ目は、民営化する保育園の選定だが、民営化後も安定した保育を継続的に実施することを前提に、施設の状態や児童数などから総合的に判断したい。四つ目は、移管先法人の選定である。原則公募とし、選定にあたっては保護者や学識経験者などからなる選定委員会を設け保育の質、サービスの質、経営状況を総合的に判断し移管先法人を選定したい。五つ目は、引継保育である。移管の際に職員が入れ替わることから児童や保護者に不安を与えないよう、移管前に市職員と移管先法人の職員が一緒に保育を行う期間を設けたい。六つ目は、民営化後の市の関与である。他の私立保育園と同様に国の補助金によって運営面を財政支援するとともに、移管後の保育内容を確認するため、民営化後も市が行政として責任を持って監督・指導していく。定期的な指導監査を行うとともに協議の場を設け、運営や保育が適切に実施されていることを確認する。最後に、民営化の実施計画だが、大まかな考え方ではなくどこの園で実施するか、移管先法人はどういった法人に委託するかなど、細かい計画については別途で実施計画を策定する。簡単ではあるが公立保育園の民営化への基本的な考え方ということでまとめた。説明は以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（羽賀委員）　児童や保護者が不安にならないよう引継保育を一定期間設けると言っていたが、大体どれくらいの期間であるか。

（栗林保育課長）　確定している訳ではないが、３か月から６か月くらいを考えている。

（大橋委員長）　パブリックコメントを求めるにあたり、３月 24 日までの間にどういった形で示すのか。

（栗林保育課長）　３月の市政だよりで周知する予定である。期間中に意見用紙を配布し、ホームページでも受け付けられるようにしたいと思う。いただいた意見は、整理し回答する。

（中村委員）　パブリックコメントの実施で広く市民から意見を募集するとあり、市政だよりにてとのことであったが、現在公立の保育園に通っている児童の保護者からの意見は特には求めないのか。

（栗林保育課長）　用紙を各保育園に配布し、保護者の目にも触れる場所に置いてもらうことになる。

（中村委員）　こちらが求めるのではなく保護者の側から自由に出す形になるのか。

（栗林保育課長）　そうである。

（大橋委員長）　この民営化の考えは国による子ども・子育て関連三法等、国の動きの中から生まれてきた状況なのか、それとも長岡市の財政を検討した結果やそれぞれの立場の方のニーズや意見が問題になってきているから新しく策定に入ろうとしているのか。

（栗林保育課長）　国では既に民間活力の導入に積極的に取り組んでいる。例えば保育園の運営費だが、私立保育園には直接、国から補助金等の手当がされる。保育園の運営主体を株式会社にまで開放し、民間活力を導入して運営する方向で施策を展開しているという大きな流れがある。自治体でも、財源としては非常に厳しい中である程度財源が確保できて安定的に運営できる方向に、という動きがある中、サービスが多様化し、３歳未満児の入園が増加している等の長岡市の現状から、安定的な保育行政を実施していくためにも運営方法の見直しが必要ではないかというところである。

（青柳委員）　保護者がより安心して子育てをすることは大切なことだが、便利になったときにその便利さを利用して欲しくない。教育委員会としては、あくまでも子育ては保護者が中心になってやるという意識を持ってもらいたい。便利になっていく分、別の角度から親としての強い意志を持つような何かを示せればと思う。

（栗林保育課長）　その意見に対しては私も同感である。仕事と子育ての両立支援や働き方の見直しをしながらも、家庭の役割、親や保護者の子育てを担っていくということも大切なことである。今後どのようにして施策を行うか考えていきたいと思

っている。

（矢沢子育て支援部長）　教育委員会が子育てを担っていくのは長岡市の大事な特色である。今もそのメッセージを発信しながら、家庭に向けた支援策をいろいろ取り組んでいる。今後、この取り組みが親の保育を子育てを肩代わりするニーズの先取りではないことを伝えながら進んで行かなければならないと考えている。

（加藤教育長）　12 月の市政だよりに載せた意見書に対して、市民から問い合わせや意見等あったか。

（栗林保育課長）　市民の方に見ていただいているとは思うが、直接、意見は届いていない。

（加藤教育長）　移管後の保育については市が責任を持って指導・監督をしていくとあるが、民営化の指導・監督の権限はどの辺まで及ぶのか。

（栗林保育課長）　長岡市は私立保育園に対して保育を委託する形になるので、定期的に監査も行う。例えば、基準に従った保育士の配置や保育の面積がなされているかといった保育の基本的な部分は指導や監査を民営化後もやっていく必要がある。

（加藤教育長）　現在、民営の保育園に対してはあまり指導を行っていない。公営でも民営でも、長岡の子どもの保育の共通点を打ち出すべき。その上で園の特色を出してもらうことは良いことだと思う。

（栗林保育課長）　今年、公立と私立保育園長の合同の研修会を始めた。今まで近いようで遠い存在であったが、今年は研修会を通して様々な情報交換をし、顔を合わせていろいろ良い点が出てきたと感じる。長岡の子どもたちを保育して育てるという共通の意識を持っていけるような機会を設ける、そういった取り組みを今後もしていきたい。

（大橋委員長）　他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　次に、報告事項に入る。12 月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局の説明を求める。

（佐藤教育部長）　一般質問から説明する。高見美加議員から、子どもたちを取り巻く環境の諸課題について質問があった。児童生徒・保護者・教員意識調査について、調査から見えてきた過去の施策の成果について問われ、昨年秋に実施したアンケート調査の結果、学校へ行くのが楽しい、授業が分かると答えている子どもたちが7年前の調査に比べて増えた。これは、熱中！感動！夢づくり教育の成果と考えると答えた。続いて、三つの課題について市の見解を問われた。一つ目の家庭の教育力の低下に関する保護者と教員の意識のずれについて説明する。アンケート調査の結果、保護者は家庭でのしつけをきちんとしていると回答している数に対し、教員が家庭でのしつけが身に付いていると感じる数が少ない。そこに意識のずれが生じている。保護者は家庭の中で自分の子どもだけを見ているが、教員は集団生活の中でそれが発揮されているかどうかを見ている。今後は家庭と学校が連携してずれを解消していく必要がある。二つ目の学力の二極化について説明する。二極化ではなく様々な子どもがいる訳なので、多様化と呼ぶようにした。教員ヒアリングや学校現場の実態を見ると、学ぶ意欲の低下は改善傾向にあり、心配する状況ではないと答弁した。三つ目の教員の多忙感について説明する。原因としては、仕事を抱え込み、家庭環境を原因とする生徒指導の対応に時間を取られるというところから来ている。業務の思い切った取捨選択をすることも大事だと回答した。続いて、今回の調査結果の情報共有についての市の考えを問われた。これについて、家庭・地域・学校が連携し、一体となって子どもを育てていくようにすると回答した。次に、土曜授業の状況と今後の取り組みについて、という質問について説明する。昨年、文部科学省が土曜授業を推進するとしたが、現在議論されている土曜授業は代休を設けずに実施するものであり、本市で実施している学校はない。だが、今までどおり土曜日の学習参観や特別授業といった活動を継続していくと答えた。次に、複式学級のある学校の現状と今後の方向性について、二つの回答をした。一つ目は、長岡市における複式学級のある学校の現状と今後の見込みについてという質問に対して、平成25年度12月現在、複式学級のある学校は、小学校が11校、中学校はない。平成31年度には小学校で13校、中学校で2校になることが見込まれる。二つ目に、学校規模適正化の観点から教育委員会の考え方を伺いたいという質問に対して、栃尾地域の西谷小学校を統合するが、今後とも保護者や地域住民の声を尊重して適正

化を進めていき、行政の方から一方的な統合を進めることはないと回答した。最後に、少人数学級の指導の成果について、一人ひとりに応じた支援をきめ細かく行うことができ、成果が出ていると回答した。次に、藤井盛光議員からの質問で、図書館政策について問われた。まず、市民の情報の拠点としての機能を強化すべきと考えるが現状はどうか、二つ質問があった。一つ目の質問、現在の図書館の取り組みについて、今年度は通常のサービスに加えビジネス支援として企業セミナーを開催したと回答した。二つ目に、博物館や大学図書館などとの連携について質問があった。現在博物館や大学図書館との連携はしていない。だが、新年度から長岡造形大学が公立大学法人になるので連携しやすくなると思われるので、今後検討したいと回答した。次に、全文検索機能を主眼としたデジタル化を推進すべきと考えるかどうか、つまり、図書館が持っている郷土資料、古文書をデータ化して一つの用語で検索できるという機能を作るべきという質問であった。これについて、データ作成業務等の課題があるので、今後、先進的な図書館の取組も参考にして研究していくと回答した。

（矢沢子育て支援部長）　続いて笠井則雄議員からの質問を説明する。新年度予算編成についていくつか質問があった。一つ目は学童保育についてである。既に児童福祉法が改正されており、今まで概ね小学校３年生までを対象としていた児童クラブだが、学年の制限が無くなった。長岡市では対象年齢が小学校６年生まで引き上がることになるが、その対応はどうかという質問である。来年度４月に設置する予定の長岡市子ども・子育て会議で検討する必要があるが、一律に引き上げるのではなく、総合的な観点から検討すると回答した。議員はモデル校の実践が必要と考えているようだが、現在も必要に応じて高学年も受け入れているので、個別の対応で取り組んで行きたいと思う。

（佐藤教育部長）　二つ目は総合支援学校について、児童生徒数についての問いには、小中高等部合計で平成 21 年度の児童生徒数が 178 人、平成 25 年度は 217 人と回答した。また、グラウンド・屋内運動場整備についての今後の計画だが、来年度は用地の取得、平成 27 年度はグラウンド等の造成工事、平成 28 年度は屋内運動場の建設と、準備を進めている段階である。高等部へのエアコン設置及び小中高等部全体への給湯器の整備だが、エアコンを設置していないのは、高等部の普通学級のみで

ある。理由として、彼らは体力もあることから扇風機で対応しているところである。給湯器も同じ理由から高等部の普通学級のみついていない状況である。今のところ特に問題はないが、その必要性について検証していくと回答した。三つ目の質問、特別な教育的支援が必要な児童生徒への対応について、平成 21 年度の特別支援学級数小中計 92 学級及び人数 334 人、平成 25 年度は 123 学級 508 人であり、介助員の増員については必要性を検討していくと回答した。

（矢沢子育て支援部長）　続いて広井晃議員からの質問を説明する。安心食材ビジネスの創出についてだが、これは食物アレルギーに着目した新ビジネスを展開するために支援をして欲しいという意図がある。子どもたちの食物アレルギーの状況や、保育園・幼稚園、小・中学校での対策はどうなっているのかという質問であった。まず、長岡市における子どもの食物アレルギーの状況だが、保育園・幼稚園における食物アレルギーを持つ児童は 481 名、小・中学校では 1,137 名であり、医師の診断に基づいて、除去食や代替食などの対応を行っている。次に、子どもの食物アレルギー対策についてだが、給食調理現場における食物アレルギーの対応は、除去食、代替食の他に、最初からアレルゲンの入っていない食材を使用する等の工夫をしながら給食の安全確保に努めていると回答した。続いて桑原望議員からの質問を説明する。発達障害児に対する支援の強化について、いくつか質問があった。一つ目は、発達障害児をどのような方法で把握しているのかという問いに対し、医師の診断のある・なしに関わらず、現場を通じて実態を見ながら把握に努めていると回答した。二つ目に、発達障害児への支援として、こどもすこやか応援チームの存在は大きいと評価をいただいた。今後の課題を問われ、現場で子どもや保護者に直接関わる保育士が、より専門性を高めていくことだと回答した。三つ目の発達障害児の支援のために人員の加配が必要と考えるが市の見解を伺うとの質問に対し、今後もきめ細やかな支援に努めると回答した。四つ目は発達障害児の就労支援についてだが、教育委員会としては総合支援学校で行っている就労の支援について回答したが、商工部・福祉の関係でもジョブサポーター制度のような企業実習制度や、若者のサポートステーションでのサポート等に取り組んでいる旨を伝えた。最後に、関係部署の連携強化について市の考えを伺うという問いに対しては、今後も関係部署の連携を図り、幼児期から就職支援まで途切れのない支援に努めると回答した。

（佐藤教育部長）　次に常任委員会の質問について説明する。まず木島祥司委員だが、就学援助についての質問があった。生活保護基準の引き下げに伴い、就学援助の受給ができなくなる世帯が出てくる懸念があるが、長岡市での影響の見込みを伺いたいという質問、また、生活保護基準の引き下げにより影響が出る世帯に対して配慮が必要と思われるが対応をどのように考えているのかという質問に対して、平成25、26 年度中の申請者には影響は及ばないが、再来年度からの申請者に影響が出てくるため検討する必要があると回答した。次に、小中学校の大規模改造工事についての質問で、小中学校における省エネ化や再生可能エネルギー導入が必要であると考えるが、現在の取り組み状況や導入について今後どのように考えるかという問いに対して、校舎の断熱性向上や照明器具のＬＥＤ化など省エネ化を図るとともに、再生可能エネルギーでは太陽光発電・雨水利用設備を設置していること。再生可能エネルギーについては、教育的効果もあると思うが、導入については費用等も勘案して検討したいと回答した。次に、関充夫委員から中央図書館の特色と役割について質問があった。長岡市は合併して多様な特色を持っている中で、長岡市全体の共通の民話を中央図書館の事業として活用していったらどうかという質問であった。これに対して、現在も行っているところがあるので、この取り組みの輪を広げて行きたいと回答した。

（矢沢子育て支援部長）　次に桑原望委員より、先ほどの一般質問の発達障害児の質問を深めたいとのことで、すこやか応援事業での保育士の専門性を高めるとは具体的にどのようなことかという質問があった。これに対して、子ども一人ひとりの特性をより深く理解すること、また、保護者に子どもの特性を理解してもらう力量を高めることが必要だと回答した。続いて発達障害児の就学先は、どのようにして決定しているのかという質問があった。段階を追ってまとめると、まず年長児の全保護者に就学支援リーフレットを配布する。次に特別支援教育ガイダンス、特別支援学級等見学会を開催するなどし、丁寧な情報提供を行う。そのうえで、保護者と特別支援教育専門相談員が相談を重ねながら、その子に最も相応しい就学先を決定している、と回答した。

（佐藤教育部長）　最後に小坂井和夫委員から文書館整備事業についての質問があった。この質問は『長岡市総合計画実施計画　進歩状況報告書（平成 24 年度末現在）』

では、文書館整備事業について、平成 25 年度以降の着手予定となっているが、今後の方向性について伺いたいとのこと。これについて、先進地視察や研修への職員派遣を行うなど、検討を始めている。今後は、市全体の公共施設の整備状況を踏まえ、利用者の意見も伺いながら検討を進めていきたいと回答した。12 月議会における教育委員会関係の質問事項の説明については以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　続いて、学校図書館活性化のための取組状況について、事務局の説明を求める。

（若月教育総務課長）　この事業の目的は、「熱中！感動！夢づくり教育」の柱の一つであるどの子にもわかる授業を実現するため、児童生徒の成長にあわせた魅力あふれる図書を充実させるとともに、司書等の有資格者が直接支援を行うことで、学校図書館の活性化を図るものである。取組内容として、教育総務課では図書と書架の購入による学校図書館の機能向上を図っている。また、学校教育課ではブックランドサポーター事業として司書等の有資格者が学校図書館を直接巡回し支援をしており、今年度は９名が 35 校を巡回した。成果としては、専門家からのアドバイスにより配架や配置換えを行ったことで、学校図書館が明るく、使いやすくなった。図書購入費が増えたことで蔵書数の少ない分野の本を購入することができ、総合的な学習などの調べ学習で学校図書館の活用が増えた。情報担当職員と連携して実物投影機を使用した読み聞かせを実施し、子どもたちの読書に対する興味を高めることができた等の様々な成果が見られた。26 年度は図書購入費を増やし、ブックランドサポーターを９名から 15 名に増やしたいと現在予算要求をしているところである。説明は以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　続いて、平成 25 年度　文部科学大臣優秀教員表彰について、事務局の説明を求める。

（山之内学校教育課管理指導主事）　被表彰者は北中学校に勤める齋藤真理教諭である。表彰理由は、生徒指導主事として、生徒の社会性の育成と問題行動の未然防止に力を発揮した。特に保護者、地域と連携した取組や小中連携によるいじめ防止の活動などを企画・運営し、成果を上げた。平成 22 年度から、県教育委員会は県優秀教職員表彰を設け、その中から文部科学大臣優秀教員表彰候補者を推薦することとなった。県は 30 名を表彰、市内からは５名が表彰され、このうち齋藤教諭が文部科学大臣優秀教員表彰に決定した。県優秀教職員被表彰者は齋藤教諭のほかに、阪之上小学校の岡村明美栄養教諭が学校給食の分野で、千手小学校の星野泰子教諭が特別支援教育の分野で、南中学校の中島裕子総括事務主幹が学校事務の分野で、旭岡中学校の大久保泉教諭が部活動（吹奏楽部）の分野で、それぞれ受賞した。文部科学大臣表彰の表彰式は、平成 26 年１月 27 日（月）に東京のメルパルクホールで行われる予定である。この功績を、長岡市の教職員に広く還元できるよう研修会等を行い、生徒指導の参考にしていきたいと思う。説明は以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　齋藤教諭の表彰理由で、保護者、地域と連携した取組とあるが、その内容をお聞かせ願いたい。

（山之内学校教育課管理指導主事）　保護者や地域と連携したあいさつ運動を企画・運営した。また、小中連携によるいじめ防止活動については、小中学校が交流して約 450 名が参加し、４～５人の小グループに分けて、貼り絵の制作等を行った。子どもたち同士が連携を保つ小グループ編成での交流で、いじめ防止に取り組んできたものである。

（大橋委員長）　是非、他の学校にも紹介しながら広めていけたら良いと思う。

（大橋委員長）　他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　続いて、平成 25 年度　長岡市の子どもたちの体力について、事務局の説明を求める。

（笠原学校教育課管理指導主事）　平成 25 年度全国体力テストの結果から、長岡市の子どもたちの体力について報告する。小学校５年生と中学校２年生の男女の全国、新潟県、長岡市の結果を表で示したものである。種目は握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げの８種目である。合計点は換算表を用い、各種目 10 点満点、合計 80 点満点で算出される。例えば、小学校５年生男子の 50m走だが、９．４秒は 10 点満点に直すと６点である。小学校５年生男子の合計点は 80 点満点中 56．４点となる。それぞれに色分けしてあり、青は全国、新潟県ともに上回った種目、緑は全国のみ上回った種目、ピンクは全国、新潟県ともに下回った種目である。新潟県は小学校５年生男子が全国で２位、女子が４位であり、中学校２年生男子が全国で３位、女子が全国で５位である。その中でも小学校５年生男子は新潟県とほぼ同じ数値であるので、全国２位の同等くらいの能力があると思われる。小学校５年生女子や中学校２年生は、新潟県の数値が高い上にさらにそれを上回る結果となっている。このことから長岡市の体力テストの結果は、全国でも５本の指に入るトップクラスだということがわかる。昨年度も同様の結果であった。この背景にはスポーツ振興課、スポーツ協会、教育委員会が連携して取り組んでいるコーディネーショントレーニング、それから熱中！感動！夢づくり教育で実施しているふれあいスポーツアシスタント事業、中学校体育種目の指導等がある。今後も教育委員会を中心として各小中学校の向上が望まれるのではないかと思う。説明は以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　続いて、上組第二児童クラブの開設について、事務局の説明を求める。

（佐藤子ども家庭課長）　上組第二児童クラブが先日開設したので報告する。上組小学校区の児童クラブであり、現在上組児童クラブが宮内コミュニティセンターに併設してある。登録者数が年々増加傾向にあるなか、児童クラブの増設に関する要望書が提出された。既存の施設には拡張スペースがないことから、宮内地域、上組小学校及び関係機関と協議のうえ、上組小学校の敷地内、グラウンド校舎側に新設した。開設日は平成 26 年１月７日であり、冬休み明けの始業式からである。児童数は上組児童クラブと第二児童クラブと二つ合わせて、地域が主体となって地域割りを行っている。建物は学校の敷地内ということで、学校からも貸して欲しいとの申出もあり、有効に使っていきたいと思っている。地域の方にもたいへん喜ばれている。説明は以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　続いて、附属機関会議報告について、事務局の説明を求める。

（武樋中央公民館長）　平成 25 年 12 月 19 日（木）に第３回社会教育委員会、公民館運営審議会を開催した。二部構成で、第２部からは教育委員との意見交換を行った。第１部は、これまで社会教育委員が参加した研修会等の報告である。一部の人が参加しているので全体に改めて報告するものである。第２部については、教育委員に出席していただき、社会教育委員との懇談会を開いた。県内ではテーマを定めて行うのは長岡だけであり、２年に一度ではあるが大変良い取組だと思っているので、今後も継続していきたい。今回のテーマは「社会教育委員の自主研修から見た学校と地域との連携について～学校と地域との連携を活発にしたい～」である。これについては、昨年６月に国で閣議決定した第二期教育振興基本計画の中で社会教育に関連した４つの柱のうちの１つとして、絆づくりと活力あるコミュニティの形成というものがある。そういった背景があることや、新潟県においても地域社会と学校との連携を重要施策として挙げていることから、社会教育の分野でも学校教育と一緒に連携を深めていこうということで今回のテーマを設定した。

（金垣中央図書館長）　続いて、平成 25 年度　第２回長岡市栃尾美術館協議会の報告をする。平成 25 年 12 月 20 日（金）に開催し、議題は平成 25 年度前期事業報告及び平成 25 年度後期事業計画、平成 26 年度事業計画（案）についての二つである。主な意見としては、ながおかのこども作品展の参加方法の工夫、企画展の金額設定、ミュージアムショップの商品の充実などがあり、これらの意見については平成 26 年度事業の企画、実施にあたって検討していきたいと思う。説明は以上である。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見はなしと認める。

（大橋委員長）　他に報告事項はないか。

（金垣中央図書館長）　中央図書館から２点報告がある。１点目は、「ふるさとのこどもたち展」の開催についてである。期間は 2014 年２月１日（土）から３月２日（日）まで栃尾地域の園児の制作した絵画や工作など約 350 点を展示する。各園が工夫を凝らした中で自分たちが表現した作品となっている。是非お越しいただきたい。二点目は、「第７回 アートクラブグランプリ ｉｎ ＳＡＫＡＩ　平成 25 年度長岡巡回展」を開催する。これは地元の中学校の先生が堺市の先生と交流があり、長岡で全国の中学校美術部の生徒の入賞作品 32 点を展示したいとの話で、ＡＣＧＰ巡回展を長岡で開く会と教育委員会の共催で実施するものである。たいへん素晴らしい作品と聞いているので是非、栃尾美術館へお越しいただきたい。以上である。

（竹内学校教育課長補佐）　児童生徒・保護者・教員意識調査について先ほど教育部長から内容の説明があったが、このことを受けて貴重な資料として活かしていくとともに、今月中に関係者に配布したいと思う。また、ただ配るだけではなく学校、地域、ＰＴＡ等で活用してもらう。市のホームページにもこれを掲載するので、ご覧いただき、意見、不明な点があったら学校教育課企画推進係まで問い合わせ願いたい。以上である。

（佐藤子ども家庭課長）　「中学生夢さがし発見塾」チャレンジ放送局（テレビ版）アオーレビジョンでの放映のお知らせをしたい。本編は昨年末に完成し、ケーブル

テレビで放送されたが、その放送を編集しアオーレの大型ビジョンで２月の１か月間、随時放映される。アオーレにお越しの際は御注目いただきたい。以上である。

（大橋委員長）　他に報告事項はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　ないようなので協議報告事項を終了する。本日の定例会はこれをもって閉会する。

（大橋委員長）　さて、12 月２日と本日訪問した学校について、委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

（中村委員）　12 月２日に栃尾南小学校を訪問した。教室を見たときに素晴らしいと感じたことは、６年生の教室に「人の誕生」というコーナーがあり、そこには胎児から成人までを粘土で作ってあった。生命との関わりを大事にして取り組んでいると感じ、感動した。３年生の体育の授業でマット運動をしていたが、体育館でスマートボードというものを使って実際に演技している映像を見せながら、子どもたちに指導していた。懇談会ではＰＴＡの会長、副会長の２名が出席してくださり、子どもたちの様子を聞かせてもらった。地域と学校との関わりを聞いたが、学校をサポートする体制が整っていると感じた。学校サポート委員会というものがあり、一つのことをお願いするとそれが十になって帰ってくるようなサポート体制ができていて、地域で学校を育てている様子がよく伝わった。最後に、若草太鼓という活動があり、６年生が太鼓を演奏するのだが、その引き継ぎ会を見学した。練習期間は１か月無いくらいで５年生に引き継ぐとのこと。６年生が演奏して次に５年生が演奏したが、短時間で練習したとは思えないくらい上手な演奏であった。

（大橋委員長）　同じく栃尾南小学校を訪問した。ＰＴＡ会長だった方が後援会長もされている地元の重鎮の方がいる。その方は、学校の教育活動、総合活動、その他の色々な授業、例えば体育や理科、図工、家庭科、食物関係まで関わって、地域の人材でどなたに一番力があるかを存じている。学校の教職員はその方に電話するだけで仕事が終わってしまうようなコーディネート役をやってくださる方が学校評議員にいることに驚いた。素晴らしい人材を発掘なさる熱心な方がいることは学校

としてはたいへん助かることである。ほかの学校でもそういった形がとれるとしたら嬉しいことだと思う。若草太鼓は学校のスタート時から発足した太鼓であるそうで、学校の行事などの発表の機会に行っている。例えば長岡商工会議所が取り組んでいる若手の素晴らしい演奏があるが、その若手の何人かが指導やアドバイスをしてくだされば、もっと良くなるのにと話していた。そういった連携が取れるような仕組みが今後とも考えられたら良いと学んだ学校訪問であった。

（青柳委員）　12 月２日に東谷小学校を訪問した。「人は幸せになるために生まれてきたのだ」という考えから、「しあわせ学校計画」なる計画書を校長先生が作成している。対話、前進、絆の三点から幸せになるための考え方を、教員全体で共有している学校であった。当日拝見したのは理科の授業で、テーマは人の誕生で、職員全体の研修も兼ねてＩＣＴを活用したものであった。少人数ならではかもしれないが、自分の意見と全く別の意見を友達の口から聞いたときに、児童の反応がなかなかみられなかった。別の意見を発表できるような児童に育って欲しいと思った。

（羽賀委員）　同じく東谷小学校を訪問した。小規模校の弱点である対話方式はあまり上手くなかったが、３人一組で生命の誕生について一生懸命に取り組んでいて、リーダーシップのある子がまとめて動かしていく様子が目に留まった。また、教員のまとまりが非常に良いと感じた。やはり校長先生の指導力が学校に影響を与えているのだと思う。ＩＣＴの活用が非常に上手くできていて、色々なところで活用されていて嬉しかった。

（中村委員）　本日、和島小学校を訪問した。まず、新しい校舎を初めて見学したが、平屋造りのたいへん広い校舎であった。木をふんだんに使っており、温もりやあたたかみが感じられた。授業の様子を拝見したが、子どもたちが非常に元気な様子でいろんな意見が飛び交う授業であった。掲示物もきれいに整頓してあり、見やすかった。良寛さんの歴史的な繋がりや時期でもあるのか習字がたくさん飾ってあり、先生の朱色の字でコメントが書かれていた。子どもの作品の良い所をとらえ、褒めているのが感じられ嬉しかった。ブックランドサポーターの方が週１回入るそうで、子どもたちが手にとって見やすく選びやすい図書館作りがなされていて良かった。しかし、ボランティアは如何かとお聞きしたところ、保護者のボランティアは読み聞かせでは来ているが、サポーターが来てくださる日はサポーターの方が一人で整

理されているそうである。せっかくなので保護者の方も参加して、お互い意見を出し合えばもっと楽しくて豊かな図書館になると提案した。市政だよりに間に合うように学校だよりを全戸配布しているそうで、地域の方に読まれているのを実感されているということだった。こうした現状から、地域の方にも手伝ってもらえばもっと良くなるのではないかと思う。

（大橋委員長）　同じく和島小学校を訪問した。授業に関しては、ゲーム化を進めていた１年生の算数の授業、５年生の立体の授業が興味深かった。子どもたちが元気良く授業を受けていたのが印象的であり、先生方の板書が非常に丁寧で文字がきれいであった。それから、校舎の造りが良くできている。６年生の理科の授業で実験を行っていたが、理科室の机の高さや空間、水周りなどが子どもの体格に添ってできていた。２クラスずつある教室は真ん中に交流できるスペースがあり、少人数にもすぐに分けることができる。これからお願いしたいことは、地域コミュニティの中心として学校が核であるという話を聞いたが、自然や文化、良寛さんを始めとし、恵まれた人材がたくさんあるので、これから学校の教育活動に核となるものを見つけながら求めていって欲しいと思う。

（青柳委員）　本日、寺泊小学校を訪問した。寺泊と言えば海である。スポーツ振興課との連携でヨットやカヌーの体験、サンドアート等の体験を行っていると聞いてたいへん嬉しかった。また、海だけでなく学校林を持っている。そこでは探鳥会や、昼休みに遊ぶこともできるそうで、とても自然に恵まれている学校だと思った。保護者は街中と違って塾がないと困っているそうだが、塾に行くよりもずっと将来的に役に立つ自然の恵みに恵まれた学校だと思う。また、津波を想定した避難訓練も行っているが、高台にあるのでよほどの地震でなければまず大丈夫とのことであった。色々な授業を見たが、久しぶりにすごく感動した授業であった。小学２年生のクラスで、「どんな風な話し方をすれば友達と仲良く話すことができるかな」を考える授業であった。同じ言葉を使っても嫌な印象を与えたり、嬉しい印象を与えたりできるという授業の中で、ほとんどの子どもが手を挙げるのだが、先生に当てられなかった児童は当てられた友達の意見をしっかりと聞いていた。自分の意見が言えなかったと思うのではなく、今発言している児童の方を見てそのことに対してまた自分の意見を持ち、発言するというすごく気持ちの良い授業だった。その理由は、

先生が児童の話を真剣になって聞くことのできる先生だった。しっかり話を聞いてもらう児童は嬉しくなって、どんどん自分の意見を言いたくなる。こうして盛り上がる授業ができていてたいへん感動した。

（羽賀委員）　同じく寺泊小学校を訪問した。６名の評議員の皆さんと教頭先生、校長先生と話をしたが、地域のサポート力が凄まじいと感じた。また、自然遺産として山の自然、海の自然、歴史遺産、商業施設としての遺産など、上手く活用しており、我々が目指している熱中！感動！夢づくり教育での「見えない学力」に繋がっていると思った。学力の二極化が大きな課題であり、通常の授業以外に管理職も含めて１日１時間設け、週５日、それを 38 週続けて学力の向上を図っている。上手く社会と連携しながら学校教育が子どもを育てていると思った。特に絵がものすごく上手く、教員の力が非常に高い学校であると感じた。ＩＣＴ機器があまり活用されていないが、それを使わなくても良い程の教員力がある。一番驚いたのは体力が低いことである。合併した地域がバス通学であり、クラブも親が送り迎えできないそうである。そういった面での不利益も多少あるのではないかと思う。もう一つは授業の目標がはっきり書いてあること。表にしたがっていくだけで授業の説明が不必要であり、参考になる授業だと思った。

（加藤教育長）　同じく寺泊小学校を訪問した。学校評議員と７、８年前の野積小学校と本山小学校の統合について正直な気持ちをお聞きした。わだかまり等無かったかと聞いたが、皆さん良くとらえていた。また、教員の平均年齢が高い学校だと感じた。年配の経験豊かな力量のある先生方で、非常に安定した学校であった。

（大橋委員長）　事務局におかれては、各委員の意見等を今後の業務の参考としていただきたい。

（加藤教育長）　議会の質問にもあったが、例えば食物アレルギーへの対応は今年に入ってから連日と言っていいほど対応に追われている。あるいは発達障害児の対応だが、全国に胸を張れるような支援をしている。あるいは学校図書の活性化の成果も、日頃我々が頑張っていることが案外市民に伝わっていないと思う。今後、例えば市政だよりに、こんな取り組みをしていると載せる等、工夫をしていかなければと思った。アレルギー対応においては、必ず最大の対応として救急搬送をしている。そのことを市政だよりに載せて、長岡のアレルギー対応はこうしています、学校に

も保育園にもよく救急車が行きますので驚かないでください、と載せる。成果や取組が市民に伝わっていくような努力をしていくことが大事になってくると思う。

（大橋委員長）　これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員